



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：大統領選挙の投票期間を1日延長

1. 投票期間を1日延長、28日まで

5月26・27日、エジプトで大統領選挙が行われた。大きな衝突や混乱等なく投票は行われたが、27日現地時間午後6時（日本時間28日未明）、大統領選挙委員会（PEC）は投票期間を1日延長し、28日までとすることを発表した。予定投票終了時間3時間前の突然の変更だった。

PECは投票期間延長の理由として、①厳しい暑さ、②（27日）午後に多くの有権者が投票所に来たため、③投票に行きたいが行くことができていない多くの国民から投票期間を延長してほしいという要望があり、それに応えるため、と発表した（27日付『マスリー・ヨウム』紙）。しかし、延長決定の背景には低い投票率があるとみられる。現地紙では、投票1日目から投票所に来る有権者の少なさが報道され、一部では投票率が30%台と報道されている。このように低い投票率でスィーサーが大統領に就任した場合、スィーサー政権は国民から十分な支持を得られていない正統性の低い政権と見なされうる。スィーサーは軍の総司令官として、クーデターで民選のムルスィー政権（ムスリム同胞団中心）を崩壊させた。投票率の低さは、ムスリム同胞団及びその支持集団にとってスィーサー政権の正統性の低さを攻撃する格好の材料となるだろう。こうした理由から、政府及びPECは投票期間の延長を決定したものと思われる。

2. スィーサー、サッバーヒー両陣営が異議申立て、PECは却下

PECの決定に対し、スィーサー及びサッバーヒーの両陣営は即座にPECに対し、投票期間延長に対する異議を申し立てた。スィーサー陣営はPECに投票日延長の権限はないと主張し、サッバーヒー陣営は、複数の政治勢力が「あるシナリオ」を実現するため政府及びPECに投票期日延長を要求したと主張した。しかし、午後8時（現地時間）、PECは両陣営の異議申立てを却下した。法律専門家からも、PECによる直前の投票期間延長は違法であるとの指摘が出ている。

（金谷研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799